SORACHI REFEREE COMMITTEE

No. 21

The sky's the limit.

全国大会参加報告～特別国民体育大会　成年男子～

今年度は鹿児島県を舞台に開催された特別国民体育大会「燃ゆる感動 鹿児島国体」のサッカー競技へ当地区から牧田審判員、大村審判員が参加しました。
両審判員より大会参加報告が届きましたので、2号に分けてお伝えします。今回は「成年男子」に参加した牧田審判員の報告です。

【担当試合】

1回戦　和歌山県vs佐賀県　主審
2回戦　京都府　vs高知県　第4の審判員

【試合を担当して】

・試合を円滑に進める根本には、正しい判定が最優先にあることを再認識。
→試合のマネジメントとは、選手に話すことや注意することが全てではなく、正しい判定をすることが最も有効なマネジメントであるということを実感。

・打ち合わせ時と試合中での審判団の共有が、試合でのやりやすさに繋がると実感。
→打ち合わせ時に、主審に任せて欲しいこと、その他の審判員にお願いしたいことをはっきり示すことと、試合中での審判間の意思疎通や共有を丁寧に進めること、これにより審判団として試合を円滑に進められることにつながることを再認識しました。やりやすい・サポートしやすい環境づくりが大切であると感じました。

【他の試合から】

同じチームによるファウルが立て続けに起き、片方のファウルを警告相当のものであると主審は判断した。だが、それにアドバンテージを適用した結果、ファウルを犯した選手の特定が完全にはできなかった。そのため主審が他の審判員に聞きにいったが、他の審判員は、もう片方のファウルが警告相当であると考えており、主審が警告すべきだと思っていた選手でない選手の番号を伝えた。結果、本来主審が警告を示したかった選手とは別の選手に警告を示すこととなった。(その後に再協議し、最初に出した警告を取り消した上で本来警告をしたかった選手に警告を示した。)
<学んだこと>
よく打ち合わせで言う、アドバンテージの元となるファウルをした選手の特定について、 審判間での共有においては、「どのファウルのことを言っているのか」「主審と他の審判員で話がずれてないか」などを確認し、丁寧に進める必要があることを認識しました。

【振り返り】

本研修会へ参加させていただき、感謝を申し上げます。全国大会に行くと、本当にたくさんの方の協力があって大会が成り立っていることを実感します。普段の試合においても、関わってくださる方への感謝を忘れずに審判活動をしていきます。今回の研修で学んだことを整理し、自分に活かすだけでなく、地域に還元することができるよう努めてまいります。

- Referee Development Partner -

GOLD　NISHIMI children's clinic　にしみこどもクリニック

BRONZE　武部建設株式会社　株式会社カワイ